

平成29年11月～平成30年2月

かてい

平成30年3月1日発行

学園短信 一步ずつ、着実に。

今号は、家族舎ごとの子どもたちの様子や、冬の行事の模様をお伝えします。

広報誌「かてい」第十九号発行に寄せて

横浜家庭学園の広報「かてい」の発行が二〇一〇年に始まってから、七年が経ちます。いろいろな方に読んでいただいております。折々に内容のお話をされ、広報誌を発行していることの大切さに気付かされています。この度、巻頭言執筆の機会をいただきましたので幼年保護会の創立以来の理念や大切にされてきた精神について、触れさせていただきたいと思います。

まず初めに「仁愛化育」を紹介させていただきます。これは横浜家庭学園の敷地に入って、すぐに見える創立者有馬四郎助の胸像の銘板に刻まれている文字であります。この言葉は二代目の有馬純彦が四郎助の友人であった徳富蘇峰氏に依頼して、書をしたためてもらったものだそうです。その際に横浜家庭学園の事業を一言で表す言葉として、「仁愛化育」という言葉を思いついたようです。化育の意味である、自然が万物をつくり育てるにかけ、仁愛すなわち慈しみの心をもって子どもたちを育てる事業であると考えたのでしよう。

家庭学園の国旗掲揚塔の銘板には「神の愛」の言葉が刻まれています。これは三代目の有馬嗣郎が当時親交のあった津田文吾氏に依頼したものであります。また、事業創立当時についての記録によれば、幼年保護会では「勤勉・独立・共同・正直・清潔」という五大主義を掲げて生活を営んでいたとされています。こうした理念や精神は、時間の経過や社会の変動により、価値観が大きく変わってきた現代においても尚、幼年保護会の事業や人が育ち、人を育てるための本質といえるものであり、私たちが受け継いでいくべき理念・精神であり続けています。

折角の機会ですので、創立者の有馬四郎助についても

少し触れたいと思います。四郎助がキリスト教を基礎として事業を起したことから、現在でも横浜家庭学園ではプロテスタント主義を基礎にしています。一方でその人柄などはあまり語り継がれていないことからエピソードを書かせていただきたいと思います。

代表的なものに「囚人であつても人間ですから」という一節があります。これは小説家の山田風太郎氏が当時という典獄、すなわち監獄の長であつた四郎助を題材に北海道の監獄を舞台にした小説を書く中で、原胤昭という人物が口にする言葉であります。原氏は囚人の社会復帰、現代の更生保護事業に尽力した人物で四郎助にも大きな影響を与えました。この時代、重罪犯が北海道開拓に駆り出され、その労役の中で命を落とすことは当たり前で、囚人の命があまりにも軽く扱われていました。そのような環境の中でキリスト教に触れる事で感化された四郎助は、「多くの囚人が命を落とした責任が長である自分の責任であり、自身も囚人の親玉であると言つて憚らなかつた」といいます。囚人と自身を対等な人間と捉え、多くの罪を背負つた自身を囚人の親玉と言ひのけたその精神性をもって、四郎助は数々の監獄制度の改良を実施していきます。

成績優秀な囚人には自由を与えたり、障害を持つ囚人の分離収容、死刑制度の廃止論など、現代では当たり前であつても当時は異端児であつたことは間違いないでしょう。我々も時代の当たり前をただ追いかけるのではなく、物事の本質を推し量り、遙か未来からみても確かな精神性を感じさせることのできる事業運営を目指して参りたいと思つ次第であります。

家族舎紹介

横浜家庭学園では、平成三十年一月月上旬に二家庭が新しく開設され、家族舎が三つになりました。一・二・四の各家族舎の子どもたちの様子をご紹介致します。

【一家庭】

岸川先生 五十嵐先生 作山先生

一家庭は小学六年生から高校二年生までの七名で生活をしています。素直な子が多く、体育会系の雰囲気がある寮です。

【さやか】

家族舎で一番年上の高校二年生。普段は甘い人坊ですが、いざというときには頼りになるみんなのお姉さんです。

【みさき】

いつも元気いっぱい！ 外を駆け回っています。前へ前へという雰囲気と行動力で、みんなを引っ張ってくれます。

【ちひろ】

一家庭の食事担当。食べ方やテーブルマナーなどをみんなに教えてくれます。しっかり者に見えるけど、実は天然さん！な中学三年生。

【あやか】

一回集中したら誰にも止められない！ コツコツ番長です。鴉に対する愛情は、学園の誰にも負けません。

【みあ】

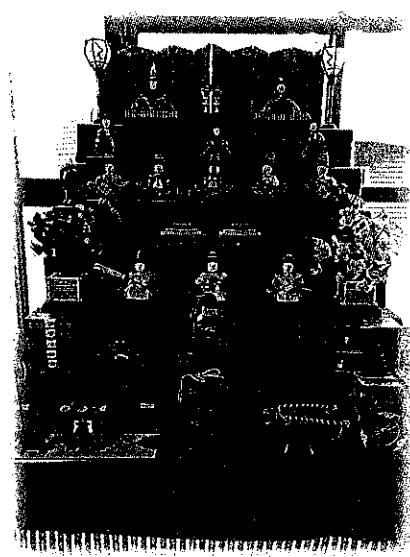
ピアノとルービックキューブが得意！ 天才的な能力を持っていて、いつもみんなを驚かせてくれます。

【みい】

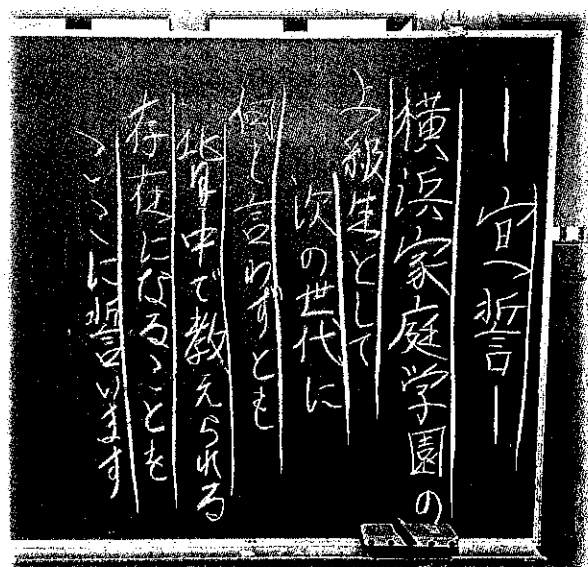
一家庭の大食い番長。照れながらもかわりをする姿がカワイイ！ たくさん食べて、身も心も大きくなってもらいたいものです。

【ゆうき】

一家庭の末っ子さん。トラブルメーカーではありますが、なんだかんだでみんなに可愛がられています。



一言(哲言)



【二家庭】

勝先生 阿部先生 北口先生

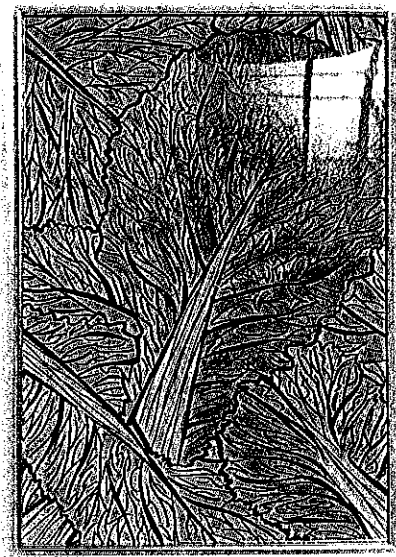
一月からスタートした新入生寮です。なにかと周りに助けられながら、自分の出来ることを少しずつ増やしていきながら生活しています。

【さら】

二家庭第一号の中学三年。新入生ながらも、家族舎ではよく気がきくお姉さんの存在として動いてくれます。いつも助かっています。

【みれい】

二家庭のムードメーカー。みれいさんのおかげで家族舎に笑いが増えました。まっすぐな性格を武器に、もともとと成長してほしいです。



← 美術の授業で製作

田子の浦に
うち出てて
見れば
白妙の
富士の高嶺に
声聞くとときど
きは降つ
つづつ
秋はかなしき
紅葉踏みわけ
鳴く鹿の
奥山に

山部赤人

猿蓑伏



← 小学部国語の授業で製作

【四家庭】

有馬先生 野村先生
佐藤先生 宅島先生

四家庭では、当たり前前のことを当たり前前に生活し、過ごしやすい雰囲気を作ら作り、『思いやり』をモットーに日々生活しています。

【りのあ】

高校2年生。年長児として、みんなを引っ張ってくれています。穏やかな性格から下の子から大人気です。誰よりも周りを見ており、気配り上手なお姉さんです。

【あみ】

高校認定試験に合格し、一段落している所です。現在は炊事場にも入らせて頂き、就労訓練を行っています。時には厳しく、時には優しい頼れるお姉さんの存在です。

【ひな】

家族舎のムードメーカーで、みんなを盛り上げています。現在は中学3年生というところで、受験に向けて勉強に日々励んでいます。

【のん】

大らかな性格でいつもみんなを笑わせたり、いじられキャラで周囲を和ませてくれます。ぬいぐるみが大好きでいつも家族舎の自由時間になると抱いて甘えん坊の中学3年生です。

【まりな】

明るく元気なひょうきん者の中学二年生。歌を歌うことが好きで、いつでもどこでもよく口ずさんでいます。

(文責：北口・宅島)



← 図書教室・蔵書が充実しました！

●十一月十日 関東文化祭

@茨城県

関東文化祭がありました。聖歌隊、リコーダー、合唱を堂々と発表することができました。他の施設の発表を見て感動した様子を話していました。

●十一月十一日 駅伝大会

@こどもの国

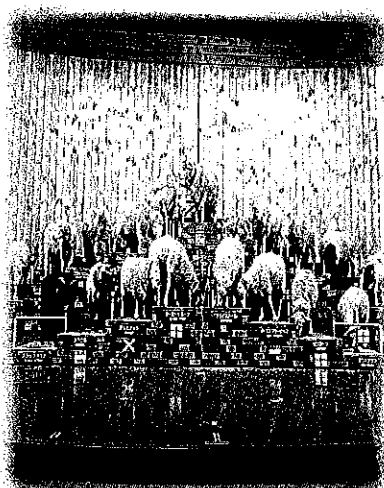
こどもの国で駅伝大会がありました。一区間二、四キロ、五人でタスキを繋ぎました。顔を真っ赤にして一生懸命走ることができました。



●十一月十四日 秋季遠足

@マザー牧場

遠足でマザー牧場に行きました。言葉の通じない動物たちと触れ合い、穏やかな時間を過ごしても癒された様子でした。大きな牛を見たり、山羊の赤ちゃんに餌をあげたり、牛の乳搾りなど楽しんで体験できました。また牧羊犬の仕事の見学は大人気でした。



●二〇一八年一月一日〜三日 正月日課

@各家族舎

大晦日から元旦まで児童は各家族舎で楽しく過ごし、年越しを迎えました。おやつ作りをしたり、テレビに食いついたり、ピザを手作りしている家族舎がありました。



●一月二三日 送別マラソン大会

@こどもの国

送別マラソン大会がこどもの国で行われました。児童と女性職員は四キロ、男性職員は八キロを全員完走することができました。

他にも、年末には文化行事で盛り上がりました！

(文責：野村)

右ページでご紹介した行事の他に、忘れてはならない横浜家庭学園の伝統行事があります。それは・・・

十二月二十六日 クリスマス礼拝

十二月三十一日 のど自慢大会

この2つ！

毎年行われるクリスマス礼拝は、横浜家庭学園で最大のイベントです。また、のど自慢大会は一年の最後の締めくくりとして、大晦日に盛大に行われます。

このページでは、昨年末に行われたこの二つの行事の様子をご紹介します。と思います。

まずはクリスマス礼拝から。

横浜家庭学園のクリスマス礼拝は、毎年十二月二十六日に行われるのが慣例になっています。

児童のケースワーカーや心理司など、関係者の方々をお招きし、普段行っているものとはまた一味違う礼拝でイエス様の降誕をお祝いします。クリスマス礼拝で行われるのは、蝋燭を用いた燭火(しょうか)礼拝。蝋燭の炎が揺れる幻想的な雰囲気の中で参加者全員が祈りを捧げました。

ページで忘れてはならないのが、クリスマス・ページエントの上演です。

クリスマス・ページエントはキリストの生誕劇のことを意味し、一般でもクリスマスの日に上演されることが多いようです。



家庭学園のページエントは子どもたちが主役！

今年も子ども全員が役者を務め、人数が少なく足りない部分を職員がフォローするかたちで行いました。初めてページエントを経験する者も多く、演技をしながら讃美歌を歌うなど、普段はなかなかやらない活動に戸惑ってしまう場面も多く見られました。何度か練習を繰り返す中で、それぞれが自分の役をものにしていききました。

本番では練習の成果を出し切り、観客の皆様楽しんで観ていただくことができました。

そして、家庭学園の一年の締めくくりとなる行事がのど自慢大会。

普段は礼拝のために利用している園内の講堂が会場に様変わりし、大晦日の日に皆で集まっつてのど自慢大会を開催します。

名称こそ「のど自慢大会」でしたが、個人(11子どもも大人も全員!)の歌はもちろん、ダンスあり、体操あり、手話歌あり、パフォーマンスあり、お笑いあり、クイズあり、何でもありの大発表会。参加者全員で歌って騒いで、楽しくその年最後の一日を過ごしました。



☆ 授業の二コマ「バドミントン(体育)」

冬季の体育の授業はバドミントン！
 体育担当職員の指導のもと、二人ペアになって練習しているところです。



外での練習ですが、子どもたちは寒さなんてなんのその！ 元気いっぱい、声を出して練習に励んでいます。

編集後記

平成二十九年度、第三回目の公報発行となりました。今号では、各家族舎での子どもたちの様子や、冬の間には横浜家庭学園で行われた行事の様子をテーマに扱っています。現在の学園の雰囲気を感じていただけたらと思います。

新入生も続々と入所してきており、新たな風を感じる今日この頃。冬季は園外でのスポーツ大会や文化行事に加え、園内での行事も充実していました。様々な活動を通して貴重な体験を積み、沢山のことを学んできた子どもたち。四月にはひとつ上の学年へと進むこととなりますが、それらの経験を生かして、新たな一歩を踏み出して欲しいと願っています。

↓ 中学三年生ホームルーム「今日の名言」より

2. 16. 金.
 I have a dream.
 夢は叶うから。
 by キンキキ

平成 29 年度在籍状況 (平成 30 年 3 月 1 日現在)

	横浜市	神奈川県	川崎市	横須賀市	相模原市	他県	合計
29 年度定員	8	8	2	1	2	0	21
30 年 3 月 1 日現在	5	7	1	0	1	1	15

社会福祉法人 幼年保護会 横浜家庭学園

神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町 18 番 1 号

電話：045-331-5884 FAX：045-331-5013

ホームページアドレス：<https://www.yokohamakateigakuen.org/>

「かてい 第十九号」編集委員会
 扇澤・野村・宅島・北口・松浦